

くまびょう

114号

NEWS

くまびょう
NEWS2006年
12月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

電子カルテの導入について



本年2月1日に導入しましたオーダーリングシステム(ORS)は、最初から電子カルテの機能を有したものでしたが、ORSは診療への障害が無く業務の改善を得られたこと、職員がORSの取り扱いに慣れたことなどを見極めまして、一部の機能追加を行い、11月1日よ

り電子カルテとしての使用を開始しました。ORS導入前にはかなりの期間をかけて何回も操作教育を行いORSの取り扱いの勉強・練習をしましたが、今回は機能アップのために追加・修正された部分を学習するだけで極めてスムーズに電子カルテに移行出来ました。この電子カルテが「安全で良質な医療の提供」に役立てるように、また将来は開放型病院の先生方ともリンク出来るように育てていきたいと希望しています。

(副院長 池井 聡)

電子カルテが稼働しはじめました

平成18年2月1日に、オーダーリングシステム(富士通HOPE/EGMAIN-EX)を稼働しましたが、平成18年11月1日より電子カルテに移行しました。

当院の電子カルテの特徴は、1)すべてのオーダー、および、すべてのレポートを電子カルテで行うフルオーダーリング・フルレポートシステムです。2)病棟では無線LANノート端末により、看護師は病室ですべてのオーダーを確認し、実施記録を行うことが可能です。このシステムにより、注射などの指示に締切時間がなく、患者さまが急変されても柔軟に対応することが可能です。3)患者さまがつけたリストバンドと、注射のバーコードをチェックすることにより、患者誤認防止と薬剤内容の適合が行われ、安全管理に貢献しています。4)放射線画像システムでは、すべての画像検査が電子化されており、高精細モニタを追加するだけでフィルムレスに移行出来ます。5)電子クリティカルパスは、オーダーの一括発行が可能であり、全入院患者さまに対するクリティカルパスの使用率は44~50%と高く、情報の共有、医療の標準化、効率的な診療に貢献しています。また、一覧性の向上、評価可能な電子クリティカルパスの開発に取り組んでおり、先進的

な電子クリティカルパスの見学目的で、全国から多数の病院が訪れています。6)外来診療は予約制となりました。予約のない患者さまも当日の空いている時間帯を予約して診察を受けることにより、診察の待ち時間が短縮されています。また、院外よりFaxで紹介して頂いた患者さまも、この予約システムを利用することで、診察日に加え診察時間まで予約し受診することが可能となりました。7)診療情報データベース(DWH)を備えており、臨床データの統計分析、経営分析などが可能です。8)開放型病院の共同指導実施記録は、従来通り紙の共同指導実施票に記載して頂き、その書類をスキャナで電子カルテに読み込む運用となっております。

今後の予定として、12月1日に手術システムを電子化し、ペーパーレスに近い電子カルテが完成致します。また、平成19年1月には、放射線画像システムをフィルムレスにする予定です。

電子カルテの導入により、患者サービス向上、情報共有によるチーム医療の充実、安全性の向上、診療の効率化が期待されます。

(病院情報システム委員会 片渕 茂)

第22回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会のご案内

- 日時 : 平成19年2月14日(月)19時より
場所 : 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター
内容 : 1. 紹介症例の呈示 2題
2. 総合討論
3. 特別講演 交渉中

〈参加申込先〉国立病院機構熊本医療センター管理課

住所 〒860-0008 熊本市二の丸1-5 電話 096-353-6501 内線390(西田・上園)



「地方病院から一言」

医法) 春水会

山鹿中央病院

院長 吉川 雄之



いつも多くの患者さんを快く引き受けて頂き、大変感謝しています。

私個人的には循環器科の藤本先生、宮尾先生、心臓血管外科の毛井先生にいつもお世話になっていますが、当院全体として多くの救急、重症の患者様を国立病院機構熊本医療センターでお世話になっていきます。ただ距離が離れているため、登録医として共同指導ができない事が残念かつ申し訳ないと思っ

います。

我々鹿本山鹿地区では、循環器の分野に限らず地域完結型医療が出来ない事が多く熊本市内の病院へお願いすることになりますが、その中でもこちらからの交通の便も良く、患者様、家族の方からの希望が多い国立病院機構熊本医療センターには大変期待しています。

ところで、先日今回新規購入された大型のドクターカーを拝見させて頂きました。少し小型のバスといった感じで広い空間とミニICUと言って良い設備に感心しました。

また、環境汚染を考慮してディーゼルでなくガソリンエンジンだそうで、これは少々高つくいても人の健康には代えられないという宮崎院長先生の“鶴の一声”で決まったとお聞きし、ますます感心しました。

次に要望ですが、貴病院のいろんな科へ紹介したり逆紹介してもらったりする中で、時々貴病院の中での各科の連絡がうまくとれていない様に思えることがあります。私だけの思い違いかもしれませんが気に留めておいて頂ければ幸いです。

今後、国立病院機構熊本医療センターがますます発展され、熊本県の中核病院として充実した医療を發揮され、かつ病診連携が更にうまくいく様願っております。

院内の連絡について

今回、吉川先生より診療科間の連絡が悪いとのこと指摘を頂きました。これは1例としては、循環器疾患で当院に入院後、follow up を山鹿中央病院にお願いしていた患者様が、別の病気で当院の他の診療科に紹介したところ、循環器疾患の内容を山鹿中央病院に問い合わせたと言う事例があったとのことです。

これまで「1入院1カルテ」で他科の入院カルテ

は閲覧しにくく、主治医が患者情報を充分把握していなかったことが原因ではないかと思えます。

今回、電子カルテになり「1患者生涯1カルテ」になりましたのでこのような事例は解消できるかと思えます。またこれまで紹介患者様が転科された後に、紹介元への報告が無かったとのこと指摘を受けたこともあり、今後、診療科間の連絡をさらに密にして、患者様の情報を的確に提供するように心がけてまいります。

今後ともよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。

(副院長 池井 聡)

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>



田北 智裕
 神経内科一般、
 脳血管障害
 日本神経学会専門医
 日本内科学会認定医



幸崎 弥之助
 神経内科一般、
 脳血管障害
 日本神経学会専門医
 日本内科学会認定医



俵 哲
 神経内科一般
 日本神経学会専門医
 日本内科学会専門医

診療実績

平成17年度の新入院患者数は458人、平均在院日数は13.5日でした。平成17年10月から認可された脳梗塞急性期におけるtPA（アルテプラゼ）静注による血栓溶解療法に関しては、平成18年9月現在で計6例使用しており、いずれも良好な転帰を辿っております。現在のところ、症候性脳出血などの合併症は一例もきたしておりません。

特色

神経内科疾患全般を扱っていますが、脳梗塞、てんかん、髄膜脳炎、パーキンソン病などの紹介・救急が多い特色があります。日本神経学会教育関連施設、日本脳卒中学会認定教育病院に認定されています。

研究

日常臨床を重視して、様々な神経疾患症例の臨床研究を行っています。脳梗塞などの救急疾患における画像や検査所見に対する研究や貴重な症例等について、日本神経学会、日本脳卒中学会、その他の研究会等に発表しております。

診療内容

曜日	月	火	水	木	金
外来担当	午前 午後	俵 俵	俵	田北	俵 幸崎
頸部血管エコー	午後	幸崎	幸崎	田北	幸崎 田北
急患対応	午前 午後	幸崎	幸崎 田北	田北	幸崎 田北

上記以外に、土日・祝日及び夜間帯はオンコール体制にて24時間対応しております。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。
 送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5
 国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで



大塚 忠弘
脳神経外科一般
(特に脳血管障害、外傷)
日本脳神経外科学会専門医



佐藤 恭一
脳神経外科一般
(特に脳血管障害、頭部外傷)
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医



吉里 公夫
脳神経外科一般
(特に脳血管障害、腫瘍)
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医

診療内容と特色

脳神経外科は平成6年に開設され、平成9年には日本脳神経外科学会専門医教育認定施設となり、研修指導を行っております。当院における救急患者の搬入件数が増加するにつれ、くも膜下出血や高血圧性脳内出血を主とする出血性の脳卒中患者および頭部外傷患者が治療の中心となりました。しかし、脳腫瘍、脊髄腫瘍患者についても積極的な外科治療を行います。

平成17年度からは日本脳卒中学会専門医認定教育施設に認定されましたので、脳卒中診療に更に力を注いでいきたいと思っております。特に、脳虚血性病変に対する頸部内頸動脈内膜剥離術(CEA)や頭蓋内外血管吻合術について症例を重ねております。最近では、重症くも膜下出血患者(grade IV、V)に対しても積極的に外科手術を試みており、成績の良い症例も増えてきました。

研究実績

慢性硬膜下血腫脳における血流過灌流と脳腫脹現象との相関性、亢進頭蓋内圧の眼圧への反映、脳内血腫量と血圧上昇反応との関連など。

さらに国立病院機構の政策医療ネットワーク循環器疾患共同研究として、「微小脳内出血の意義」について共同研究(主任)を行っています。

ご案内

頭部CTやMRI所見についてはご遠慮なくご相談下さい。

診療実績

当科の入院患者数および手術件数は順調に伸びてきました(図1)。昨年度は頭部外傷(慢性硬膜下血腫を含む)と脳血管障害患者の合計で入院患者のほぼ8割近くを占めるようになり、緊急疾患に対する体制の強化が益々重要となってきました。年間手術件数は213件となり、脳動脈瘤クリッピング術(37件)など脳血管障害に関するものが主です。

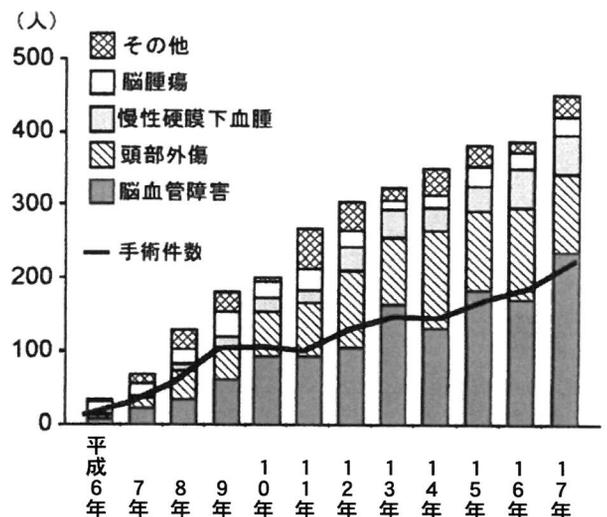


図1 入院患者数と手術件数

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ 33回
無症候性の微小脳内出血 (microbleeds) の
臨床的意義に関する研究

脳神経センター脳神経外科医長 大塚 忠弘



ご存知のとおり、“無症候性脳梗塞”については、CTの臨床応用とともに1970年代頃から報告され始め、高血圧や加齢との相関、あるいは、症候性の脳梗塞発症に対するリスクなど広く理解されています。大部分は穿通枝領域における直径15ミリ以下の小梗塞（ラクナ）を指しますが、これに対峙するような“無症候性脳出血”は疾患概念的に確立されたものではありません。最近、組織ヘモジデリン検出に優れたT2*MRI撮影法を利用して、小さな（10ミリ以下）症状の無い出血点（microbleeds:MBs、図1）について報告され始めましたが、いずれも後ろ向き調査かつ症例数も限られたものであり、臨床的意義は尚不明です。

当科では一昨年pilot studyを行い（濱崎清利、佐藤恭一、筆者）、脳出血患者で実に6割以上の高率でMBs (microbleeds) を認めることを報告しました。この調査結果をもとに、昨年度から国立病院機構ネットワークにおける共同研究を開始しました。当院からは、神経内科（田北智裕医長ほか）も参加し、主に脳梗塞患者におけるMBsの調査を行っております。この研究では1年目に患者登録を、また、その後数年間は追跡調査（前向き調査）を行い、顕在性脳出血の続発などを調べます。まだ、患者登録の途中（登録患者数は396名）で解析も終了していませんが、一部についてご紹介したいと思います。

表1にみられるように、MBsは出血性脳卒中患者の約7割、次いで虚血性脳卒中の4割、非脳卒中患者の2割に認められ、疾患に依存します (p<0.001)。しかし、くも膜下出血等では非脳卒中患者のそれと変わらず、脳内出血に高率に認められます。MBsは、40歳代以下では稀で（6%）、50歳代より急激に増加し始め70歳以降では約半数の患者に出現するなど加齢の影響を強く受けています。検出感度 (sensitivity) は、T2*撮影法を100%とした場合、T1・T2強調法では10%代に

	発生率	登録数 (名)
出血性脳卒中患者	66%	135
脳内出血	71%	119
その他	25%	16
虚血性脳卒中患者	39%	84
脳梗塞	46%	63
その他	19%	21
非脳卒中患者	20%	177
腫瘍	8%	36
外傷	34%	47
ドック	13%	31
その他	21%	63

表1. 疾患別MBs発生率

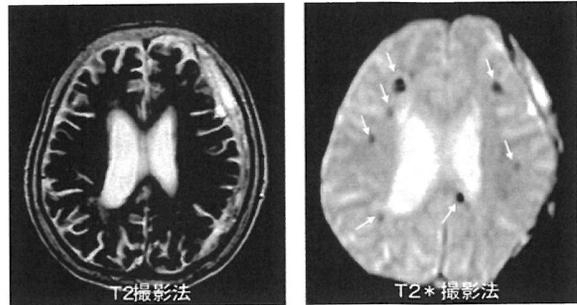


図1. MRI (T2*撮影法) によるMBsの検出

留まり、CT撮影に至っては僅か5%以下であり、汎用の撮影法ではほとんどのMBsは見逃されているのが現状です (図1)。

危険因子については (表2)、加齢の他に高血圧や糖尿病が挙げられ、また、画像所見としては、無症候性脳梗塞、脳萎縮、leukoaraiosisと強い相関を認めます。MBsが将来脳出血を生じるリスクになり得るか否かについては、追跡調査の結果を待たねばなりません。MBsと脳出血の“既往”との関連については有意性を見出せなかったものの (p=0.082)、MRI画像上では、過去の脳出血癍痕像との間に強い因果関

	Odds比	
①性別・年齢		
年齢 (>65歳)	2.50	p<0.001
性別 (男/女)	1.07	NS
②一般の既往		
高血圧	3.01	p<0.001
糖尿病	2.01	p<0.05
高脂血症	0.62	NS
肝硬変	4.42	NS
喫煙	0.61	NS
アルコール	0.80	NS
透析		p<0.05
③頭蓋内疾患の既往		
脳出血	2.71	NS
脳梗塞	2.04	NS
頭部外傷	0.57	NS
④手術・薬物の既往		
頭蓋内手術	0.76	NS
心血管手術	7.35	NS
抗血小板・凝固薬	2.42	p<0.01
血栓溶解療法	2.90	NS
⑤MRI画像上の要因		
脳出血癍痕	6.95	p<0.001
脳梗塞癍痕	1.16	NS
無症候性梗塞	5.22	p<0.001
脳萎縮	3.45	p<0.001
leukoaraiosis	3.28	p<0.001

表2. MBs発生の危険因子
係を認めました (オッズ比 6.95、p<0.001)。また、透析治療 (登録数はまだ少数) や抗血小板・凝固薬の使用により、MBsが有意に出現する (各々p<0.05、p<0.01) ことを考慮すると、MBsが将来の脳出血を予兆する可能性は高いと考えます。MBsは多要因性のmicroangiopathyを示唆するものと思われ、将来、この研究が出血予防の治療に貢献できることを期待しています。

研修レポート

救命救急センター

つかのてつし
東野哲志



平成18年4月より研修医として勉強させて頂いております東野哲志と申します。2年間お世話になります。長いようで短かった内科系ローテートが終わり、現在外科系の研修をしています。指導医の先生方に恵まれ、学生の頃にはまったく身につかなかった（経験することのなかった）手技を中心に、知識

や医療事情などについても丁寧に指導して頂いております。出来るようになったことも多いのですが、まだまだ知らないこと、学ばなければならないことが多く、日々悪戦苦闘しています。

当病院では救急外来の特性もあり、急性期疾患を診る機会が多く、大変勉強になります。また、診療科に関わらずどの科のドクターも急性疾患に対応されていることに驚かされています。

3年目からは自分の専門分野も決めなければならないのですが、どの科に進むにしろ当病院での研修は非常に実りのあるものになると思います。今後も自分を磨き、本物の医師になれるよう励んで行きたいと思っております。

未熟な身であり、先生方や看護師、技師の方々にもご迷惑をお掛けすることが多いと思っておりますが、その都度ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

外科

なかしまりょう
中島亮



はじめまして。平成18年4月より国立病院機構熊本医療センターで研修をしている中島亮と申します。国立病院機構熊本医療センター専属の研修医として2年間お世話になります。

4月に研修を開始してから、早くも8ヶ月が経過致しました。これまで、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、麻酔科を研修させて頂きました。当院が大変多忙であることは、学生の頃の実習である程度知っていたのですが、「まさか、ここまで忙しい

とは」と研修当初は度々思いました。

そんな忙しい中、指導医はもちろんのこと他の先生方からも、ご自身の時間を惜しまず熱心に指導して頂き、大変勉強になっております。

救急外来での研修では、多数の救急症例を経験させて頂き、チームとして一丸となって、診療していくことの楽しさも知ることができました。

また、中心静脈穿刺や挿管などの手技も多数経験させて頂きました。そこで、失敗したら何がダメだったか、そして次回成功させるためにはどうすれば良いかを指導して頂き、少しずつではありますが手技が確実なものになっていくのを感じてきました。

これからも皆様にご迷惑をかけていくことが多々あると思っておりますが、一生懸命頑張っていきますので、これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

総合医療センター

内科

きただまき
北田真己



平成18年4月より国立病院機構熊本医療センターで初期研修をさせて頂いております北田真己と申します。

外科系研修から始まり、4月～9月には一般外科、救命救急部、麻酔科にて研修をさせて頂きました。病院のシステムをはじめ何もかもがわからない状態でのスタートでしたが、オーダーの仕方や基本手技、

診療の考え方など一から丁寧に御指導頂きました。現在も日々新しい経験をさせて頂いており、大変勉強になっております。

救急外来では1次～3次救急まであらゆる症例を経験させて頂きました。次々と救急搬送される患者様を最低限の時間で診断し、対処もしくは適切な専門科へコンサルトすることの難しさ、またその責任の重さをこの半年で痛感しております。

10月からは内科系研修が始まっておりますが、今後も各科で自分自身の達成目標を掲げ、充実した研修にしたいと思っております。

これからも諸先生方や医療スタッフの方々にはご迷惑をお掛けすることがあると思っておりますが、御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

研修のご案内

第64回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]
[糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]

日時▶平成18年12月14日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 『多血症、高血圧共に術後改善を示した胃癌合併副腎腺腫の1症例』

国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科 市原ゆかり、児玉章子、高橋 毅、小堀祥三、東 輝一郎

2. 『血糖上昇後も意識障害が遷延した低血糖昏睡の1例』

国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科 児玉章子、市原ゆかり、高橋 毅、東 輝一郎、小堀祥三

3. 『電子化糖尿病クリティカルパスの改訂について』

国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科 小堀祥三、市原ゆかり、児玉章子、高橋 毅、東 輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 小堀 祥三・東 輝一郎 TEL 096-353-6501 (代表)内線796

第95回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成18年12月18日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例提示「なるほど！出血傾向の鑑別のすすめかた—下腿血腫を主訴に来院した女性の1例を通して—」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科 村上 和憲

4. ミニレクチャー「特発性血小板減少性紫斑病の新しい治療戦略—ヘリコバクターピロリ除菌—」

国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL:096-353-6501 (代表) FAX:096-325-2519

第12回 国立病院機構熊本医療センター医学会の開催と演題募集のご案内

第12回国立病院機構熊本医療センター医学会が平成19年1月13日(土)、14日(日)の両日国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにて開催されます。

例年通り病院全体の職種が参加し発表します。

開放型病院登録医の先生方にも是非ご発表頂きたく演題募集をさせていただきます。

応募方法は演題抄録をフロッピー、CDまたはUSBに入れて下記宛にご送付頂くか、e-mailにてご送付下さい。

多数のご参加をお待ち致します。

抄録提出締切日：平成18年12月11日(月)

字 数：全角600字以内

お問合せ・送付先：〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター医学会実行委員 内科医長 小堀 祥三

TEL:096-353-6501 FAX:096-325-2519 E-mail:skobori@kumamoto2.hosp.go.jp

平成 18年 研修日程表 12月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

12月	研修ホール	会議室	その他
1日(金)	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会		8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
4日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
5日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
6日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
7日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
8日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
11日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
12日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
13日(水)	18:00~19:30 第45回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
14日(木)	19:00~20:45 第64回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
15日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
18日(月)	19:00~20:30 第95回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
19日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
20日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
21日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
22日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
25日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
27日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
28日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター-地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)